西日本版

兵庫県協製造委員会

新たな大震災に備え

講習会　東日本の経験生かそう

兵庫県ＬＰガス協会製造委員会（金本州司委員長）は18日、神戸市中央区のＡＮＡクラウンプラザホテル神戸で「東南海・南海地震対策強化講習会」を開いた。東日本大震災を踏まえ、いち早く製造事業所の防災対策を強化する目的で実施した。同地域でも東南海・南海地震の発生が懸念されており、最大級の被害にも対応できる体制が求められている。冒頭、全員で東日本大震災の犠牲者を悼み黙とうした。

金本委員長は「日常の保安業務をどのような姿勢で臨むかで、いつ想定を越えた地震が発生しても対応できる。基本をしっかりと繰り返し。徹底することで大きな災害も小さくできる。原点に戻って日々の業務に邁進してほしい」と述べた。

兵庫県産業労働部産業振興局産業保安課の手木雅一係長は「ＬＰガス充填所における地震対策」として①平成17年以前の耐震基準で建てられた事業所は計画的に設備の更新②現在の設備が作動するかの再確認・再点検③自社作業マニュアルの見直し④マニュアルに基づいて年数回の訓練――などを行うよう要望した。

手木雅一係長

伊藤義進部長

金本州司委員長

兵庫県プロパンガス保安協会の伊藤義進部長は「ＬＰガス製造事業所における設備の維持管理」について講演した。福島県の原発事故を例に挙げ、「日常、月例、定期自主検査は、常に疑いの目を持って設備の点検をしてほしい」と述べた。また、「ルールを守る習慣を身につける（法令の順守）」「整理整とんの実施」「分りやすく的確な指示」「五感も使った点検チェック」――が必要と強調した。

福岡県協福岡支部西部会

ジェルコと連携モデル構築

ガスリフォーム研究会が初会合

福岡県ＬＰガス協会福岡支部西部会（中野正善部会長）は、リフォーム事業への本格参入を目的に日本増改築産業協会（ジェルコ）九州支部との共同事業に乗り出した。16日、福岡市で両者の連携組織「ガスリフォーム研究会」の初会合を開き、周知チラシの配布など具体的な連携手法についてアイデアを出し合った。

中野正善部会長

加藤重信氏

第1回会合は福岡県協西部会傘下のＬＰガス販売店7社、ジェルコ側から8社の計15社が参加し、情報交流を図った。ディスカッションでは、ＬＰガス事業者が手がけるリフォーム事業の認知度向上策として、共通の周知チラシを作成し毎月の検針時に顧客に配布することを決めた。掲載内容、デザイン、発行部数は今後詰める。

ガス温水式床暖房に関心を示す参加者

また、提案力強化の一環として、ジェルコ主催の定例会・研修会を活用するほか、増改築相談員の資格取得を推奨する。顧客データを一元管理するソフトウェアの採用も検討する。４月に2回目の会合を予定しており、近く役員会を開き、組織体制、予算、秋のイベントを視野に入れた事業計画を固める。

中野部会長（大栄産業社長）は「若手を中心にリフォームに関心の高い経営者が手を上げてくれた。ＬＰガス側のメンバーは12社程度。両業界が交流を深め成果を上げよう」と呼びかけた。

ジェルコ九州支部の加藤重信氏（チクモク専務）は「ＬＰガス業界との連携モデルとして実績を残せるよう、つながりを強固にしていきたい」と意気込みを述べた。

参加者からは「チラシにはジェルコと組んだことによるメリットを打ち出すべき」「まずは自社のお客さまに徹底的に知らせ反響をみたい」「詳細なお客さま情報を入手するための仕掛けが必要だ」「検針員を含めた現場力が重要になる」「他の部会にも取り組みを広げてほしい」――などの意見が出た。

会合はパロマ福岡営業所で開かれ、体感型のガス機器研修会も併催した。安永振一郎所長が市場動向や最新機器について説明し、「床暖房は床の張り替えを切り口に提案すればお客さまに受け入れられやすい」と両者に提案メリットがある商材として扱いを勧めた。

九州ＬＰガス業界とジェルコ九州支部との連携は全国の中でも盛んで、九州コラボ主催の交流セミナーなどで両者の連携策を探ってきた。ただ、初の交流セミナー（22年2月開催）では、ジェルコ側から「ガス事業者ごとの温度差が大きいと感じる。タッグを組むにはその見極めが肝心だ」「ガス事業者のフォロー体制は万全か。検針、集金、配送が合理化され接点機会が不足しているのでは」など厳しい指摘があった。西部会の販売店有志がこうした課題をどう克服し、リフォーム事業を軌道に乗せていくのか注目される。

ＪＬＩＡ関西と近畿２府４県協

事故低減へ一致協力

第２回合同会議

日本ＬＰガス供給機器工業会（ＪＬＩＡ）関西地区会（二ツ井喜美雄会長）は2月25～26日、神戸市の兵衛向陽閣で「ＬＰガス事故低減推進合同会議」を開いた。機器メーカーとＪＬＩＡ本部から24人が出席。滋賀県、京都府、奈良県、和歌山県、大阪府、兵庫県の各協会の専務理事、事務局長など12人が参加し、保安について情報と意見を交換した。

合同会議は昨年、メーカーの実務者と府県協会が一堂に集まって保安向上を図ることを目的にスタート。今回が2回目の開催となる。

会議の冒頭、二ツ井会長と榎本正徳・ＪＬＩＡ専務理事があいさつした。続いて古林摂樹・ＪＬＩＡ本部業務委員長が活動報告を行った。老朽化設備の一掃や製品安全高度化など、ＪＬＩＡの安全高度化メニューと進捗状況を説明。また小型調整器やメーターの出荷量を10年前と比較したデータを、全国のブロック別に紹介。最近の事故状況と併せ、設備改善による保安向上を訴えた。

供給機器メーカーと府県協会が一堂に会した

各府県協は保安対策を報告。「コンプライアンスセミナーの開催やＣＯセンサー設置促進活動」（滋賀）、「独自の保安手帳を作成し、保安講習受講時に判子を押す」（京都）、「独自のチラシ配布」（奈良）、「臨海興業地域の保安体制の充実」（和歌山）、「本部と各拠点を結ぶガス漏れ連絡系統の整備」（大阪）、「火災警報器のパンフレットの配布」（兵庫）――などさまざまな対策が採られている。

意見交換の中では協会側から「ＪＬＩＡのニュースを届けるだけでなく、レクチャー付きで配布すれば効果が高まる」「メーカーの社団法人として国に働きかけを強めてほしい」などの要望があった。

組織改革と人事

新コスモス電機（４月１日）

〔組織〕①品質管理本部「センサ品質管理部」を廃止②リビング事業部「中国第一部」を廃止し「中国プロジェクト室」を新設③インダストリ事業部「中国第二部」を廃止し、生産部に「中国支援グループ」を新設④国内営業本部を新設し「営業戦略室」「業務推進室」「東日本支社」「西日本支社」「メンテナンス部」を設置⑤海外営業本部を改編し、「海外第一営業部」「海外第二営業部」「業務グループ」を設置

〔人事〕国内営業本部門管掌兼中国営業部長（営業部門管掌）取締役専務執行役員上席生産管理本部長兼品質管理部長（品質管理本部長）取締役常務執行役員情報システム室長中村彰治▽兼海外営業本部長兼経営企画室担当（経営企画室）▽兼広報室担当（広報室）▽取締役管掌兼上席執行役員管掌（管掌）▽兼内部統制担当副本部長兼営業本部長（営業本部）▽国内営業本部森龍雄▽国内営業本部副本部長兼営業戦略室長▽同東日本支社長金井隆生▽同リビング事業部長補佐中奎千▽同インダストリ事業部副本部長兼センサ開発センター長川口賢治▽国内営業本部副本部長（インダストリ事業部）▽国内営業本部長（海外営業本部）▽国内営業本部長（西日本支社長兼大阪第一営業部長）▽同岡本武司▽兼管理本部長代理、管理本部総務人事部長木村和夫▽センサ品質管理部長兼務を解く、品質管理本部インダストリ品質管理部長杉本裕司▽リビング事業部中国プロジェクト室長（海外営業本部事業推進部長）小野浩一郎▽兼国内営業本部東日本支社副支社長、東京第二営業本部（西日本支社長兼大阪第一営業部長）